

## 「～もう一人では泣かせない～ 引きこもりだった三人が送る『心の授業』」事業

### 苦しみの渦中にある人たちに「大丈夫だよ」と 伝えることで生きる勇気を与える講演会ライブ

小学校から中学校まで不登校で引きこもりだったという「JERRYBEANS」の3人。自殺まで考えるほど苦しんだ自分たちだからこそ伝えられることがあるのではないか。誰もが「生きる喜びを見いだせる社会の実現」を目指す彼らの活動は口コミで広がり、行く先々で大きな反響を呼び、感動の輪が広がっている。

#### 音楽と体験談で構成された講演会ライブで 音楽をすることの意味を見つけた3人

2010年の真夏のある日、「JERRYBEANS」の3人は高知にいた。教員や教育関係者が約200名集まった研究会で、彼らは小学校高学年から中学校まで不登校で引きこもりだった自分たちの過去を語るようになっていた。しかし、与えられた90分間は、話をするだけの時間としては長すぎた。そもそも、本来が口ベタで、知らない人たちの前で話をするなど苦手だった。「実は、僕たちはバンドをやっています」という話から、音楽ライブと体験談で構成される講演を行うことになったのだというが、期せずして聴いていた先生たちから、涙、拍手、感動、称賛の声……。それが、メジャーデビューを目指していた彼らのターニングポイントとなった。

「引きこもりだった頃感じていたことを素直に語り、

自分たちの思いを表現した楽曲を歌ったのですが、まさかそんなに感動してもらえるとは思いませんでした。それまでの音楽だけの単純なライブでは感じたことのない反応でした。自分たちの体験が必要とされているのではないかと感じたし、メンバーがそれぞれどんな思いでいたのかということを知ることができました」

「JERRYBEANS」の3人、八田典之さん、山崎史郎さん、山崎雄介さんは、そう口を揃える。そもそも3人が出会うきっかけとなったのは、不登校の子どもを持つ親たちが集う会に両親が参加したことだ。親たちを通じて知りあった3人は、やがて意気投合するようになり、バンドを作って演奏活動を行うようになった。

高知での講演会に音響担当として参加していた小梯泰明さんは、「自分たちが音楽をやることの意味が、そのときにはっきりとつかめたのではないのでしょうか。自分たちではマイナスだと思っていた体験が、人の助けとしてプラスになるのだということに、彼ら自身が気づいたのだと思います」と語る。こうして、「1回きり」のはずだった講演会ライブは、その後の彼らの音楽スタイルとなり、そのときの講演会のタイトルであった「マイペースプロジェクト」は、「生きる喜びを見いだせる社会の実現」を理念として2011年に立ち上げたNPO法人の名称となった。この法人で、小梯さんは理事長、八田さんは副理事長、山崎兄弟



3人の熱いステージに会場の聴衆も老若を問わず盛り上がる



素直で力強いメッセージが聴く者の心をとらえる

は理事を務めている。

#### 重いテーマを伝わりやすい形で届けることで 誰もが自分のこととして考える契機に

音楽演奏の合間に自らの体験を語るというのが、彼らの講演会ライブの基本形だが、会場で大画面スクリーンに映像を映し出したり、本格的な照明や音響を駆使することで、福祉エンターテインメントショーとしても成り立つ高いクオリティを追求している。その一翼を担うのが、マイペースプロジェクトの趣旨に賛同して活動を共にする手話シンガーのyokkoさんである。「突然、声が出なくなる病気になったときに会った」という手話を大胆に取り入れたパフォーマンスは、「誰もが、身体で音楽を楽しめる」ということを伝えてくれる。

さらに、彼らの講演会ライブは、極めて柔軟性に富んだものでもある。招いてくれたところと事前に綿密な打ち合わせを行い、不登校、引きこもり、いじめ、差別、障がい、薬物、福祉作業所のチャリティなど、講演会のテーマを絞り込み、それに即した内容となるように心がけている。最近では、卒業式のプロデュースなどを依頼されることもあるという。また、できるだけ、講演会ライブの参加者と一緒に楽しめるコラボレーションを組み込むようにしているの

#### 担当者より



助成のおかげで活動の  
幅が広がりました。

NPO法人マイペースプロジェクト  
理事長  
小梯泰明さん

2年続けて助成をいただいたおかげで、講演会に前のりしたり、レンタカーを借りることができて活動の幅が広がり、本年度は130回を超える講演会を実現することができました。NPOとして自立するために、新たな事業なども考えています。今後も支援をお願いします。

も特徴の一つである。人権や福祉に関する講演会という、どうしても話す側、聞く側という片方向なものになりがちだが、彼らの講演会ライブでは、「参加する人と一緒に創り上げるものにしたい」という。

その思いや実践が、大切なことを、より効果的に伝えることにつながっている。2013年度は130回を超える講演に招かれ、また、地元の高知県の人権啓発テレビCMに2年連続で起用されるなど、マスコミの注目度が上がってきているのも、そうした彼らのメッセージの発信力や喚起力の強さが評価されているからに違いない。「今後は、さらに活動の範囲を広げていくことと、新たな事業として、障がいの人も自由に楽しめる野外ライブの『パラリンロック』、廃校を活用してライブや悩み相談を組み込んだ林間学校的なものをやっていきたい」と、小梯さんは将来の夢を語った。



マイペースプロジェクトの活動の様態を伝えるチラシ